

環境に配慮した持続可能な大会を通じて、 豊かな都市環境を次世代に引き継いでいきます

- 東京2020大会は、東京が成熟都市としてさらに発展するとともに、持続可能な環境都市モデルを提案し、豊かな都市環境を実現していくための好機となります。
- 資源に乏しい日本が、持続的に成長していくためには、再生可能エネルギーの利用拡大や省エネルギー対策を推進するとともに、低炭素な次世代エネルギーである水素エネルギーの活用を進めることが重要です。
- とりわけ、選手村を水素社会の実現に向けたモデルとするなど、大会で水素エネルギーを活用して、大会を契機に水素エネルギーの普及を推進し、水素社会というレガシーを残していきます。
- また、大会に向け、低炭素・防災力・快適性を同時に備えたスマートエネルギー都市*の実現に向けた取組を推進していくとともに、暑さ対策や資源循環における先進的な環境対策に取り組み、豊かな都市環境を次世代に引き継いでいきます。

2020年に向けた取組の方向性

1 水素社会の実現に向けた取組を推進します

選手村を水素社会の実現に向けたモデルとするとともに、水素ステーション*の整備、燃料電池*自動車・バスの普及など、大会を契機に水素エネルギーの活用を促進します

主な取組

- ・水素供給システムの整備など選手村を水素社会の実現に向けたモデルに
- ・水素ステーションの普及促進
- ・燃料電池バスを都営バス・BRT*に率先して導入

2 持続可能な都市の実現のため、環境対策を推進します

省エネルギー化や再生可能エネルギーの活用、大会に向けた暑さ対策等による都市の熱環境の改善など、大会を契機に環境対策を一層推進し、豊かな都市環境を次世代に引き継いでいきます

主な取組

- ・大会施設等でのエネルギー利用の効率化・最適化
- ・遮熱性舗装*等の整備やクールスポットの創出など、大会における暑さ対策の推進
- ・大会に向けて、再生資材等を選択する「持続可能な調達」の推進



1 水素社会の実現に向けた取組の推進

水素エネルギーの意義

水素エネルギーは、環境負荷の低減、エネルギー供給源の多様化、経済・産業への波及効果、非常時対応などの様々な意義を有している。

1 環境負荷の低減

水素は、利用段階で排出されるのは水であり、CO₂は一切排出されない。

2 エネルギー供給源の多様化

水素は、水や木質バイオマスなど様々な資源から製造することができる。

水素社会 の実現

3 産業の裾野も 広く経済波及効果 が高い

水素関連産業は日本の高い技術力が集約されており、産業の裾野も広く高い経済波及効果がある。

4 非常時対応の視点 からも有効

災害で電力供給に支障が出た場合でも、燃料電池自動車等が非常用電源となってエネルギーを供給することができる。

2020年に向けた取組の概要

○水素エネルギー普及の推進

■ 水素パイプラインの整備等による水素供給システムの実現などにより、選手村を水素社会の実現に向けたモデルとするとともに、大会で水素エネルギーを活用し、水素社会の実現を推進する。
(再掲: 14頁参照)

■ CO₂フリー水素も先駆的に活用するなど、環境と調和した未来型都市の姿と日本の高い技術力を世界に発信していく。

■ 安全対策を着実に実施しながら、水素エネルギーを都市づくりに組み込むことにより、環境にやさしく災害に強い都市の実現を目指す。

■ 水素エネルギーの多角的な活用による日本のエネルギー構造の変革や低炭素社会の構築に向けて、長期的な視点に立って着実に取組を進めていく。

【取組例】

1 水素ステーションの整備

■ 設置事業者への支援や、都関連用地の活用を図ることにより、水素ステーションの普及を後押しする。

2 燃料電池自動車・バスの普及

■ 燃料電池バスを都営バスやBRTに率先して導入し、普及を図る。
■ 災害時における燃料電池自動車・バスの活用に向けて、外部給電器の普及を図る。

3 家庭用や業務・産業用燃料電池の普及

■ 集合住宅等への家庭用燃料電池の普及や高効率な次世代型の燃料電池の開発を促す。

4 都民への普及・浸透

■ 水素エネルギーに馴染みの薄い都民も対象とした普及啓発を行う。

5 安定的な燃料供給と需要創出

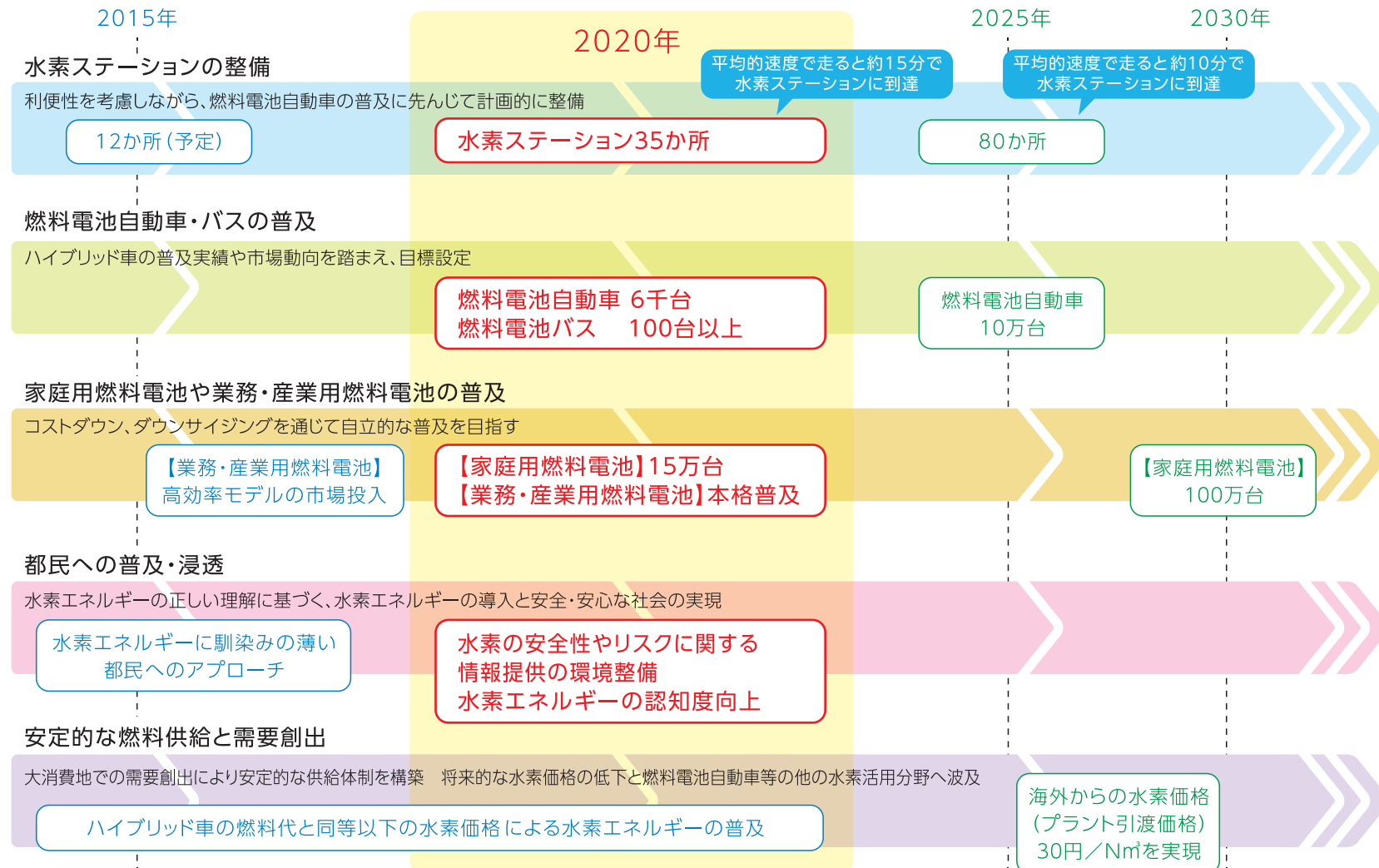
■ 羽田空港での水素活用など、様々な用途での活用拡大に向けた検討を行う。
■ 太陽光等の再生可能エネルギー由来水素活用設備の導入拡大に向けて、民間事業者を支援する。
■ 東北などでつくられた再生可能エネルギーを活用したCO₂フリー水素の導入を、国や事業者と検討する。

6 国への働きかけ

■ 水素ステーションの設置に関する規制緩和や、民間事業者等への継続的な財政支援などを国へ要望していく。

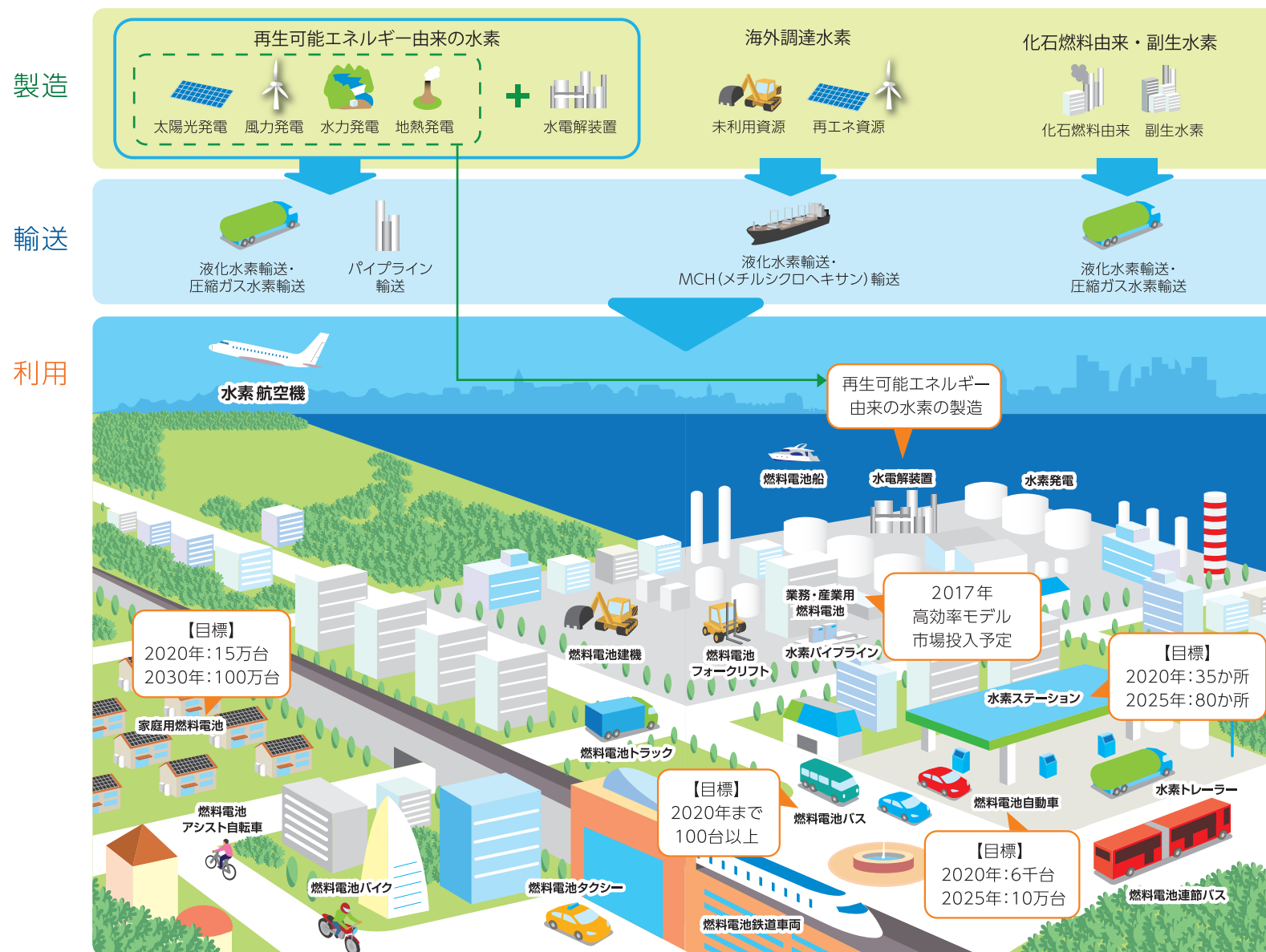
水素の普及拡大に向けたロードマップ

水素社会の実現に向けた取組を着実に進め、東京2020大会を契機に水素エネルギーの普及・拡大を図る。



未来の水素社会イメージ

再生可能エネルギーから製造されるCO₂フリー水素の割合が増加するなど、環境にやさしい水素社会が実現



※これらは代表例であり全てを網羅しているものではありません
開発中、開発前の用途を含みます

2 持続可能な都市の実現のための環境対策の推進

2020年に向けた取組の概要

○スマートエネルギー都市の実現

■ 大会施設等での、省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入により、エネルギー利用の効率化・最適化を図る。

■ 競技会場建設から廃棄物処理まで、大会の開催前・開催中・開催後のそれぞれの段階で、CO₂排出を管理・抑制する。

■ BRTの導入やシェアサイクル*との連携を通じて、公共交通機関の利便性をさらに高めて利用を促進する。また、シェアサイクルの交通手段としての定着を図る。

■ 都営バスに燃料電池バスを率先して導入することで普及促進を図るとともに、民間事業者等に対して電気自動車などの次世代自動車の導入を支援する。

○持続可能な資源循環型都市の実現

■ 先進企業等と共同した「持続可能な資源利用」に向けたモデル事業の実施等を通じ、食品ロスの削減や事業系廃棄物のリサイクルルールづくりを進めるなど、大会に向けて廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）を徹底する。

■ 大会に向けて、森林認証木材等の各種認証製品や再生資材を選択するとともに、「持続可能な調達」を推進するとともに、都民・企業等に対しても、低炭素・自然共生・循環型の原材料等の選択を普及・促進する。

○大会に向けた暑さ対策と、水と緑に囲まれた快適な都市環境の実現

■ 遮熱性舗装等の整備や街路樹による木陰の確保、クールスポットの創出など、競技会場やその周辺の暑さ対策を推進する。また、大会に向けて、庁内横断的な推進会議を設置し、暑さ対策の具体的取組を展開・発信していく。

■ 競技会場周辺等の道路で植栽帯に花壇を設けるなど、都民や観光客等が快適で美しいと実感できる花と緑を生かした緑化を進める。

■ 競技施設周辺等で、在来種等の生態系に配慮した植栽を推進するなど、様々な主体と連携して緑を量的・質的に充実させる。



ドライ型ミストによる暑さ対策（東京スタジアム）